

メガイアワビの種苗生産

(栽培漁業種苗生産事業)

開内 洋・奥田 進

1. 研究目的

中間育成用種苗、放流用種苗および養殖用種苗として殻長8～15mmサイズ30万個の生産を目指して生産し、配布する。

2. 研究方法

(1) 平成18年度採卵分（中間育成～出荷）

中間育成は屋外の10m水槽9基を用い、塩ビ製の黒色シェルターを1槽当たり18～22枚敷いた。飼育海水（生海水）の換水率は毎時1回転とした。朝～夕は95%遮光幕で遮光した。餌料はアワビ用配合餌料を週3回、生アラメを週1回程度、飽食量を給餌した。底掃除は5～6日に1回全排水で行った。出荷の約2～3日前に剥離し、選別、計数（重量換算法）を行い出荷した。

(2) 平成19年度採卵分（採卵～珪藻飼育）

親貝は、平成19年7～9月にJFしまね浦郷支所、海士町漁協で約150個を購入し、親貝養成して採卵に用いた。採卵は11月中旬～12月上旬にかけて、1週間毎に3回行った。採卵誘発は前日から夜間止水法を行い、採卵日の朝からUV照射海水と海水加温（自然水温5℃程度昇温）を組み合わせで行った。卵は洗卵した後、1tの孵化槽2～3基に収容し、幼生を4～5日間飼育した後、採苗に用いた。採苗は屋内の6m水槽7基と3m水槽4基、屋外10m水槽1基を用いて、上げ採苗を行い、幼生を波板に付着させた。5日～2週間の屋内飼育の後、屋外の珪藻飼育では、10m水槽へ移動した。飼育水は、採苗後約1ヶ月後までは濾過水とし、以降は生海水を使用した。搬出後は、珪藻を維持するための遮光を適宜行い、採苗後、約1ヶ月目から週1回程度の全排水掃除、採苗枠を上下反転、注水口側と排水口側のホルダーの入替えをして、珪藻の管理を行った。また、施肥として、

硫酸を約300g/日・槽を添加した。

3. 研究結果

(1) 平成18年度採卵分

平成19年2～8月は摂餌状況が良く成長も良好で、出荷まで順調に成長した。8mmサイズは、隠岐道後水産種苗センターへ平成19年4月に12万個、15mmサイズは益田種苗センターおよび養殖業者へ平成19年6～8月に14万個の出荷を行った。昨年7月下旬～8月上旬にかけて益田種苗センターで赤潮による被害があったことから、益田種苗センターへの出荷を8月盆明けに行なった。

(2) 平成19年度採卵分

採卵には延べ64個の親貝を用い、総産卵数は4,088万粒で、受精率74%、採苗約1ヶ月後の付着数は約95万個、付着率は5.7%であった。また、1回目の剥離選別時（3月中旬）で72万個を計数した。本年は珪藻飼育時の珪藻の状態が良かったせいか付着後1ヶ月後から1回目の剥離選別時までの歩留まりが高かった（76%）。以後順調に生育している。

4. 研究成果

中間育成後、県内全域の沿岸に放流が行われる予定である。